

2020年7月22日
西日本旅客鉄道株式会社

安全教育設備の充実 ～在来線総合実習室と安全体感棟～

当社では、安全最優先の意識を高めるとともに、安全に必要な技術力を維持・向上する教育を実施しており、中でも、机上教育だけでは身につけにくい内容については、肌で感じ、体感を通じて学び考えることを重視しています。

今回は、当社の社員研修センターに新しい安全教育設備が2つ完成しましたのでお知らせします。

1. 在来線総合実習室

(1) 概要

- ・実物の車両を模擬し、運転士・車掌シミュレータを備える
- ・現実に近い環境下で訓練可能で、「見て」「聞いて」「触れて」「体感」することで、原理原則から学ぶ
- ・運転士、車掌、運輸指令員の養成研修で活用

(2) 主な機能

- ・運転台と各機器（パンタグラフ・床下機器等）の連動
 - ・模擬故障の発生
 - ・映像教材の使用
- ⇒故障対応訓練や異常時処置訓練が可能
(訓練パターン数が167から220に増加)



2. 安全体感棟

(1) 概要

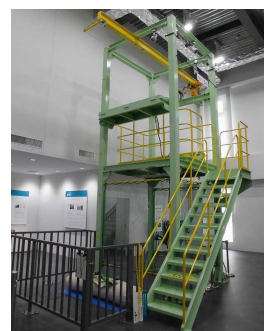
- ・重大労災（「触車」「感電」「墜落」）の防止に向けて、体感を通じて、自らできる対策は何かを学び、考えるための施設
- ・全社員対象の安全考動研修、養成研修で活用

[沿革]

- 2015年1月 社員研修センター内に設置
- 2018年4月 「安全考動研修」にて施設活用
- 2020年5月 リニューアル（鉄道安全考動館に併設）



速度100km/hを
バレーボールの球速で体感



高さ4mから重さ60kgの
サンドバックが墜落した際の
衝撃を体感

(2) 主な設備

- ・VRを用いた労働災害の模擬体感、墜落衝撃体感 など
- ・鉄道システムを支える各分野について学ぶ設備を併設